SMBC ベンチャーキャピタル株式会社

【概要】

SMBC ベンチャーキャピタル VC 投資部は、三井住友銀行グループの広範な情報ネットワークと専門性の高いソリューション力を活用し、多角的な視点から投資先企業の成長・発展に貢献していくことで、共に新しい価値を切り拓いていくことを目指している。

SMBC ベンチャーキャピタル株式会社の特徴

	A	Aに近い	比較的Aに近い	どちらでもない	比較的Bに近い	Bに近い	B
投資先企業の経営に対する姿勢	経営者の自主性に任せる（ハンズオフ）	★					経営に積極的に関与する（ハンズオン）
投資対象の分野	多様である		★				特化している
投資実績の多いステージ	”レイター”が多い			★			”シード”や”アーリー”が多い
投資の形態（ファンドの活用状況）	本体からの投資が多い					★	ファンド（投資事業組合等）からの投資が多い
リード・インベスターのスタンス	リード・インベスターであることが少ない		★				リード・インベスターであることが多い
種類株式の活用	種類株式の利用に消極的				★		種類株式の利用に積極的
営業範囲（国内）	広範に拠点を設置（全国展開型	★					一部地域に限定（地域展開型）
VB発見手法	組織的な仕組みによる		★				個人の活動による
VBの技術力を評価審査する方法	外部機関に評価や審査を依頼				★		自社のキャピタリストが評価や審査を実施
組織の独立性	親会社からの影響力が強い		★				親会社からの影響力は弱い

‘

（1）企業概要

VC の基本情報					
設立年	2005 年 9 月				
資本金	500 百万円				
従業員数	40				
株主構成	三井住友銀行グループ				
本体投資	総投資額（残高）	1,272 百万円	投資事業組合	総投資額（残高）	11,176 百万円
	総投資企業数（残高）	65 社		総投資企業数（残高）	202 社
	総投資額	非公開		投資事業組合数	非公開
2014 年に予定している投資企業数		非公開			

営業地域・拠点	東京、大阪
本社所在地	東京都中央区日本橋茅場町 1-13-12 さくら日本橋ビル
問合せ先窓口	http://www.smbc-vc.co.jp/corporate/profile.html
ホームページ	http://www.smbc-vc.co.jp/index.html

【保有ファンド】

非公開

【グループ会社】

三井住友フィナンシャルグループ

【沿革】

1992 年 3 月　（株）三井ファイナンスサービスと太陽神戸抵当証券（株）両社からのベンチャーキャピタル業務部分移管により、さくらキャピタル（株）を設立

1995 年 8 月　住銀ファイナンス（株）からのベンチャーキャピタル業務部分の移管により、住銀インベストメント（株）を設立

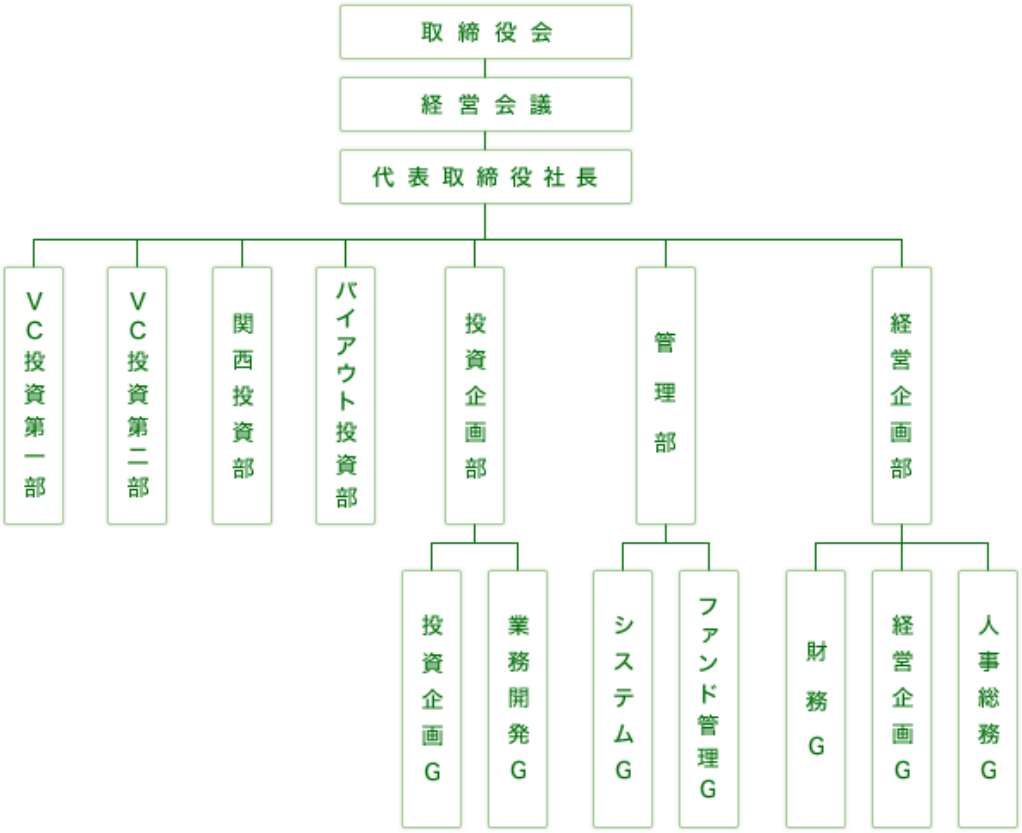
2001 年 4 月　さくらキャピタル（株）と住銀インベストメント（株）が合併し、SMBC キャピタル（株）となる

2005 年 10 月　SMBC キャピタル（株）とエヌ・アイ・エフ ベンチャーズ（株）が合併し、エヌ・アイ・エフ SMBC ベンチャーズ（株）となる

2008 年 10 月　大和 SMBC キャピタル(株)に商号変更

2010 年 7 月　三井住友銀行グループと大和証券グループの合弁事業解消のため、大和 SMBC キャピタル（株）が会社分割を実施し、SMBC ベンチャーキャピタル（株）発足

【組織図】



■経営陣やスタッフの経歴、組織構成

ベンチャーキャピタリストの人数	20 人
ベンチャーキャピタリストの平均投資経験年数	約 5 年

■代表的なキャピタリストのプロフィール、投資実績、IPO 実績

（1）代表的なキャピタリスト

組織的な運営を実施しているため、代表的なキャピタリストはいない。特記事項無し。

（2）投資戦略について

＜投資方針＞

■投資対象分野、業種、ステージ、地域

・投資対象は、特定の分野・業種・ステージ・地域にとらわれず、高い創造性や専門性、革新的な経営手法などにより、将来の成長期待が大きな未公開企業に対して、積極的に対応している。

■重点をおくセクター、テーマ、地域

【セクター、テーマ】

		詳細項目		
通信ネットワーキング及び関連機器	□	□ロボット技術	□センシング技術	□
コンピュータ及び関連機器、IT サービス	□	□M2M	□ネットワーク・セキュリティ技術	□ウェアラブルコンピューティング
ソフトウェア	□	□Web サービス	□クラウド技術	□CtoC Web サービス
半導体、電機一般	□	□デザイン家電	□ガジェット	□モバイル用 CPU
バイオ、製薬	□	□再生医療	□創薬	□創薬支援
医療機器、ヘルスケアサービス	□	□医療機器開発	□訪問看護	□臨床試験
工業、エネルギー、その他産業	□	□機能性新素材	□資源開発	□バイオ燃料
メディア、娯楽、小売、消費財	□	□ゲーム開発	□ニュース、ブログ自動選別配信	□カジノ
金融・不動産、法人向けサービス	□	□不動産開発	□金融情報サービス	□データ解析
クリーンテクノロジー関連	□	□EV、水素自動車	□太陽光・風力・海洋等発電技術	□省エネルギー・畜電力
特定しない（すべて）	■			

投資額が大きい案件としては、自動車エンジン開発会社、システムキッチン製造販売会社、水晶発振器の開発製造会社、再生医療、アドテクノロジーのスマホアプリの会社がある。全体としては投資先の業種に顕著な傾向はでていない。

IT・半導体についてはファンドを NEC グループと共同運営しているイノベーティブベンチャーファンドにて検討する。

【地域】

	該当地域	理由	社数（社）	金額（億円）
北海道				
東北地方				
関東地方（東京を除く）	○	拠点の近くでの案件発掘が中心となっているため。	非公開	非公開
東京都	◎		非公開	非公開
中部地方				
近畿地方	○	自社の拠点がある上、親会社（銀行）の拠点が多い	非公開	非公開
中国地方				
四国地方				
九州・沖縄地方				
アジア・太平洋地域				
欧州地域				
北米地域				
その他の海外				
特定しない（すべて）				

■リードインベスターの方針

リードインベスターを獲得せず、少額分散投資としている。

■案件ファインディングの体制、方法

案件のファインディング体制以下の通りである。

・三井住友フィナンシャルグループ

・キャピタリスト（約 20 名）

案件ファインディング体制にあるネットワークからの紹介による案件検討がほとんどである。

また内訳をみるとグループ会社からの紹介が 70%～80%を占めている。残りは投資部員が個人的なネットワーク、メディア等の二次情報、投資先からの紹介、展示会等への参加によって案件発掘している。

■VB との接触方針、接触からの投資検討（審査）に至るまでの期間

・ケースバイケースであり、特に標準的な期間はない。

■ハンズオン、メンタリング

・少額分散投資のため限定的に実施。

（3）投資までのプロセス・審査基準等

■審査開始から投資実行までの期間

・案件によるが、3 ヶ月～4 ヶ月程度である。

■審査時に必要な資料

事業計画・IPO 計画概要、資本政策・株価推移（株主、時期、株価、株数、潜在株式数）、決算書（過去 3 期分）、商業登記簿謄本写し、定款写し、役員経歴（生年月日、学歴、職歴）、株主名簿新株予約権名簿、足元の受注明細（製品別、売上先別）、受注見込み明細（製品別、売上先別）、売上先上位実績、仕入先上位実績、勘定科目明細、資金繰り表、直近の月次試算表、銀行別借入残高表、組織図（人員配置計画）など、一通り存在する資料は依頼する。あれば、監査法人のショートレビュー報告書、株価算定書、知的財産にかかるエビデンス、主要取引先の契約書も依頼している。

■審査前に重視されるポイント

・経営者　・ビジネスモデルの独自性、新規性　・事業の収益性　総合的にみたプロダクトやサービスの内容。

■審査プロセス

	プロセス	内容	審査上のポイント
Ⅰ	投資担当によるヒアリング	資料依頼および事業計画の概要のヒアリングする。 また社内報告会において投資検討開始の説明を実施する。	大きくは ・成長性、 ・投資収益性 ・投資リスク の視点で検討される。
Ⅱ	役職者同行による経営者面談	投資担当者の上司（主に投資部長）による面談を実施する。	
Ⅲ	投資員会資料作成	投資委員会資料作成し審査担当部署によるチェックを行う。	
Ⅳ	担当役員による経営者面談	投資担当役員による面談を実施する。	
Ⅴ	投資委員会による検討	投資方針を決定する。	
Ⅵ	社長による経営者面談	社長による経営者面談を実施する。	

■投資形態

・普通株式による投資が中心であるが、案件により、種類株式を積極的に活用している。
　（IPO できない場合にも収益を確保のためなど）

・事例は少ないが、種類株式スキームの設計も行う。

・追加投資にも適宜対応する。

＜投資業務以外の主要提供サービス＞

■提供可能な支援メニュー一覧

リードインベスターであることが少ないため、支援するメニューは限定的。

ただし三井住友フィナンシャルグループの強みを活用した支援は実施している。

・銀行と連携した取引先の紹介。

・その他投資先同士の紹介。

■支援事例

非公開